

中期経営計画の概要・進捗

りそなグループは、現中期経営計画（2024年3月期～2026年3月期、以下中計）を「リテールNo.1実現への加速に向けてCX（コーポレートトランスフォーメーション）に取り組む最初の1,000日」と位置づけています。SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）・DX（デジタルトランスフォーメーション）の潮流などを見据えた「変化への適応」および「収益・コスト構

造改革のさらなる加速」を図るべく、リテール特化の歴史の中で培ったグループの強みを活かしたビジネスの深掘と、新たな価値の創造への挑戦を通じた「価値創造力の強化」、グループ連結運営のさらなる強化と、一体的な基盤改革を通じた「経営基盤の次世代化」に取り組んでいます。

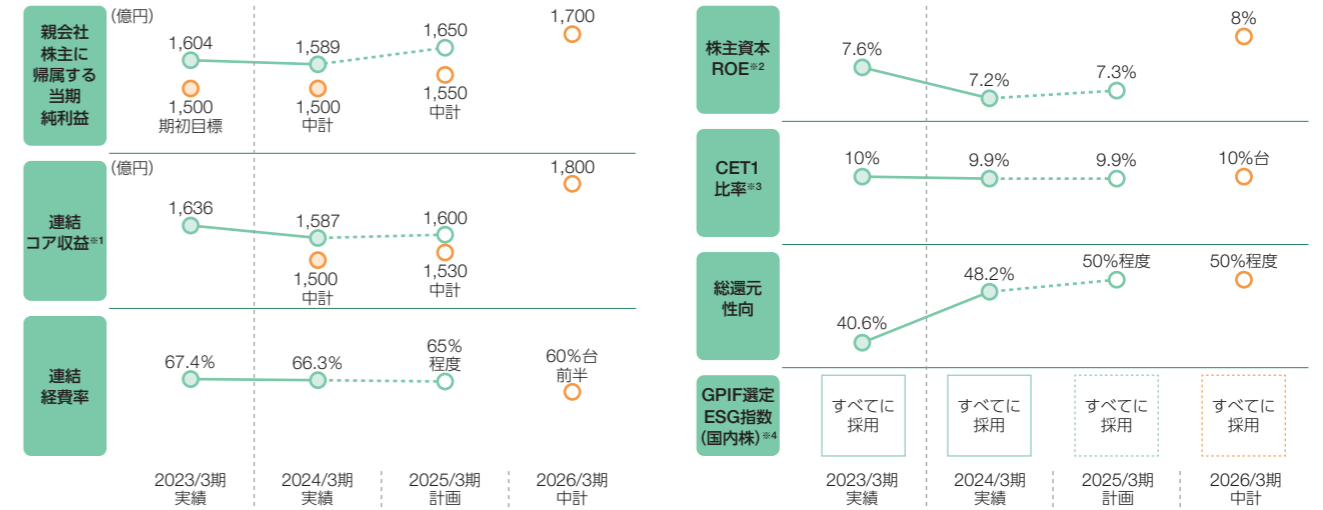
中期経営計画の全体像



中計初年度となる2024年3月期の進捗状況は、総じて順調と評価しています。親会社株主に帰属する当期純利益は、「中計+」に向けた取り組みを進展させたうえで目標比105.9%、連結コア収益は、目標比105.8%となりました。連結経費率は66.3%、株主資本ROEは7.2%となりました。CET1比率は、資本活用を着実に進展させながら9.9%と、中計比フラットでコントロールしています。総還元性向は50%程度を掲げるなかで48.2%、GPIF選定のESG指数には、引き続きすべて採用されています。

成長投資の拡大を通じて、戦略が着実に進捗しています。具体的には、事業環境が変化するなか、フィービジネスの拡充に加えて、りそなグループの強みであるお客さま基盤を活かした預貸金ビジネスの再興が進んでいます。お客さまのこまりごとを起点に、顕在化する様々な資金需要へ積極的に対応することで、貸出金が計画以上に伸長しました。また、インオーガニック投資も2案件が完了し着実に進展しています。

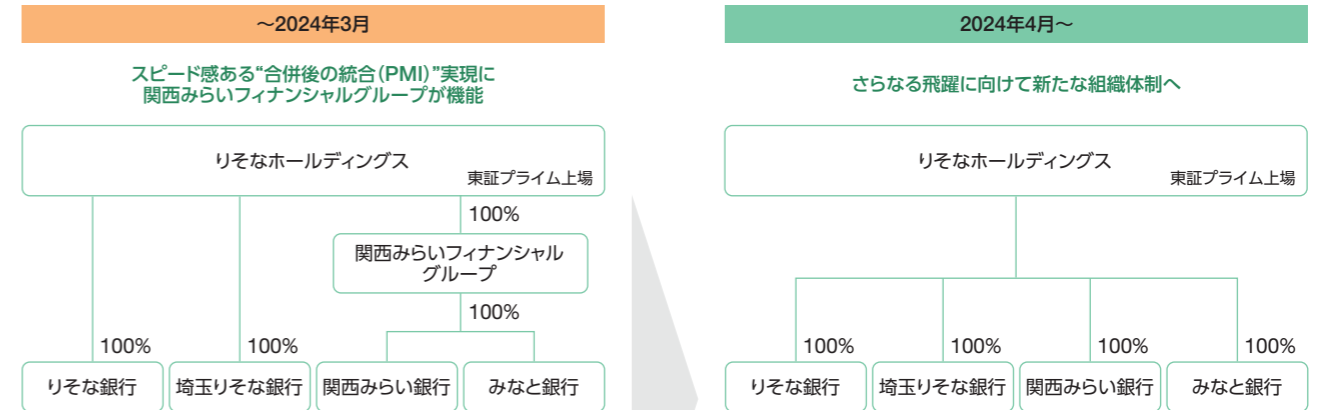
中期経営計画における主要経営指標の進捗状況



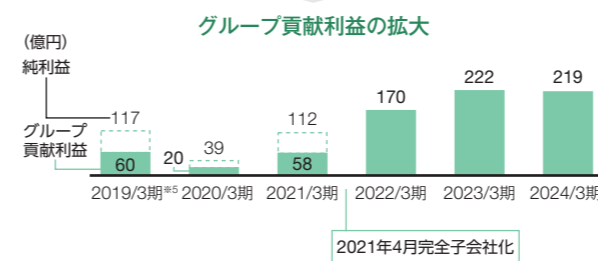
2024年4月には、りそなホールディングスと関西みらいフィナンシャルグループの合併が完了しました。関西最大の地銀グループの司令塔として関西みらいフィナンシャルグループが果たしてきた役割は大きく、トップライン、コスト両面からのシナジー効果を通じて、グループへの貢献利益は初年度の60億円から2024年3月期には219億円まで拡大しましたが、私たちを取り巻く環境がこれまでにない速度で変化し続けるなか、ガバナンス・組織体

制を発展的に見直し、新たなステージへ挑戦していくものです。意思決定のスピードアップ・シンプル化を通じた「グループガバナンスの強化」を進めるとともに、グループ全体のバックヤード・間接部門の一本化による効率化を追求し、4つの銀行がそれぞれの地域特性に応じた最適なソリューションを提供する「ワンプラットフォーム・マルチリージョナル戦略」の確立を目指していきます。

グループ連結運営の強化 ～りそなホールディングスと関西みらいフィナンシャルグループの合併（2024年4月）～



関西みらいフィナンシャルグループが 関西最大の地銀グループのスタートを主導



「グループガバナンス」の強化

- グループ連結運営の高度化
- 意思決定のスピードアップ・シンプル化
- 各子銀行の実効性ある成長戦略の実現

「ワンプラットフォーム・マルチリージョナル戦略」確立へ

- 地域・お客さま特性に応じた価値提供
- グループ共通の価値提供
- グループ共通基盤～圧倒的なコスト競争力～

※ 1 国内預貸金利益+円債利息等+フィー収益+経費、2024/3期および2025/3期は実質ベース（合同金信影響、リース2社完全子会社化要因除く）

※ 2 親会社株主に帰属する当期純利益÷株主資本（期首・期末平均）

※ 3 国際統一基準、パーゼル3最終化・完全実施、その他有価証券評価差額金除き

※ 4 FTSE Blossom Japan Index、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index、MSCI ジャパン ESG セレクト・リーダーズ指数（2023/3期まで）、MSCI 日本株 ESG セレクト・リーダーズ指数（2024/3期以降）、S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数、MSCI 日本株女性活躍指数、Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index

※ 5 真のれん発生益を除くベース